

寺報

龍正寺

日なた 196号

此岸から
彼岸へ
日延



<令和 6年 9月>

宝龍会
護持会

経 職 一 言

8月のお盆が過ぎ、9月は秋の彼岸です。
御先祖様、祖父母の供養をいたしましょう。
当山では9月22日(日)秋季彼岸会の法要いたし
ます。ご存じの様も塔婆を建てて供養しましょう。

此岸とは現実の世界、彼岸とは仏の世界です。
7日間には六波羅蜜(六度)の修行があります。
御先祖様の供養するにも、私たちの精進
も必要です。

前回にも六波羅蜜を書きましたか? 目に様な
事を書いてみました。

1日目(19日 彼岸入)

布施行 - 一人の爲にた為良の事を行ふ

2日目(20日)

持戒行 - 仏様の戒めを守り、正しい生活、自分
自身の人格を完成させていく事

3日目(21日)

忍辱行 - 困難にも耐え忍びおこり高ぶる

ことなく常に平靜心を

4日目(22日)

中 日 - 御先祖様の供養をいたす事

5日目(23日)

精進行 - 進むべき道に向かって、たゆまずに
励み努力する事

6日目(24日)

禅定行 - 静かに慮り迷いのない、落ち着いた
心で精神集中すること

7日目(25日 彼岸明)

智慧行 - 正しいものの見方、考え方を持つこと

以上六波羅蜜を修め精進下さい。

毎日のおこないは、御先祖様のおこなひです。
正しい心で正しい生活する事は 御先祖様
も同様です。

毎日の信心、信仰に御精進下さい。
合 掌

南無妙法蓮華経

～ 親子の繋がり ～

聖語カレンダー 8月の解説に、"生きていた時の両親の目線であなたが笑っていた時、うれしかったとき、と同じ気持ちだったでしょう。親子の繋がりとはたとえ時や場所が違って切れるものではありません。あなたの心がけがそのまま亡き両親に伝えます。ご両親がよるこほれるよう、自身の行いや思いを思い直してみる時かもしれません。"とありました。

お盆、彼岸と亡き父の供養を忘れた事はありません。それは、父が他界するまで父の愛を受け入れ感謝できなかつた事への懺悔でもあります。

解説には"でもちょこ、と見方を変えてみましょう。"とありました。

父は体の弱かった私に、時々厳しく言葉を投げつけてきました。私自身が体が弱い事を理由に、自分に甘く楽な方向を選択していた事を知っていたのです。

きっと、心まで弱くなるな!!と教えてくんでいたのだと思います。

しかし、病気で亡くなる数年前から「姉ちゃん体は大丈夫か?」「無理していないか!」「しっかり寝とるか?」と会うたびに心配してくれていました。

今秋の彼岸は父に安心してもらえる様に「自分の体を労っています。大丈夫です。我が心身は親が残した体、大切にします!」と手を合わせたと思います。きっと父があので笑顔でいてくれる様な気がします。いつまでも安心してもらえる事も父への供養になると思います。

！ 姑の法要

きびしいあの暑さに耐えられて……
秋の涼風が少しづつ感じられていとも
身はろくにんている様です。

妙法のおかげさまで暑い日々が
越えられましたこと何よりの有難さ
と存じます 暑期中自転車で出かけ
ます時も走っている時もこの暑さの中を
走らせてもらえることの喜びにお題目を
一心に唱えながら 有難いなあー
有難いなあーと走ります 行く先へ
到着致しますと……ぶじにと還んでら
ってありがとうございますと又お題目で
お礼を申します。何時とどんな時も妙法の
おかげさまを有難く感じております

要る物があったら書き出しておいてくれ
俺がきちんとすよからと言ってくれます。
なんて有りかたいことと喜びのわたくし
でございませう。こんなことも妙法の
おかげさまよりの気づきると勿体なく
の喜びです。その日の夜の読経の時に
おほあんに話しました...おほあかん...
仏肉もきれいにあったし...みなさんが寄っ
て下さるからおほあかん嬉しいでしょう...
わたくしとうれしいよ...と涙声です
おほあかんとは43年肉の暮らして来た
わたくしが嫁ぎました時47才若き娘
でしたわたくし23才若き嫁でした...
どこへ行くのも一緒にでした。感心な
良くてくれました。信仰の道も誠心
誠意でつとめてくれました。

9月7日におばあちゃん(姑)の17回忌を
務めます 身内もだんだんと少なくな
ってきておりますので少し淋しさも
覚えますが おばあちゃんも子供や孫や
嫁が参ってくればきっと大よろこび
でいてくれると思いながらのこの頃で
ございます この法事のことで長男が

仏内の部屋の敷物をとり替えて
くれました…色合っがいい…少し柄が
入ってて大スキです いいのにとり替えて
くれてありがとうございます 上等やねえと言ったら
高かったんで笑ってました

おばあちゃんが喜んでいるだろうねえと
二人で笑って話しました

花は元かーお供之物は何がいるんやあー

まだ法々経にはご縁がなかった
頃でしたのでお大師さま お不動さま
薬の国分寺のお薬師さまへといつと
目玉には参拝に出かけていました
帰りに好きなユースがたのしみたばかりの
思い出があったのです そんなことのご縁よ
り今等、法々経に又のご縁が頂け
ましたとは言ひ尽くせない程のおかげ
様でございませう おはあかんもきときと
よろこびでいてくれることと思っております
有りかたの思いで有りかたに法々を
務めさせて頂きたく思っております。

女リ法のおかけ様—いっ合掌
小さなよろこびに幸せを感じてゆきます中で
幸せも積もってゆくことでしょう...

心の財

「聖徒タイムズ」の紙上法話の中で題として「本当の幸せ・豊かさとは」の中で、労働環境が与える、心への影響、豊かさ・幸せの真の意を探る内容の文面で

「蔵の財よりも身の財すぐれたり、身の財よりも心の財第一なり」日蓮大聖人さまが四條金吾に対して書き示した手紙の解説されているのを見て、お寺でもその内容の法話の表題があったのでじっくり内容を見ていました。

私達は目に見える形で豊かさばかり追いかけてしまいがちですが、本当に大切なのは、心が安らぐ豊かさであること。「蔵の財」よりも「身の財」、「身の財」よりも「心の財」。

この「心の財」を積んでいくことに人生の目的があり、そのためにこそお題目の教えがあると、日蓮大聖人さまはお示しになりました。

「蔵の財」も「身の財」も「心の財」があってこそなので。

職場では労働環境が与える「心の負担」を
病むスタッフが^目増えてきています。

過重労働・パワー・夜勤等 様々な要因が
みえかくれしています。

自身もイキ周をくずし、仕事で泣くこともありました。
その中でも スタッフは理解してくれ、仕事のフォローもして
くれ、声をかけてくれました。

そんなスタッフ達がいる環境は本当は素晴らしい
ものであり、社にとって「心の負担」であること=気づい
ていませんでした。

今は少しでも思い返しできるように気にするスタッフ
がいたら自分から声をかけるようにし、いかにスタッフ
には、「大丈夫無理しないでね」など言うように「心」がけ
るようになりました。

全てが皆がして下ったことと同じ事ですが、自分が
してもらいうれしかったことを感謝と共に実践してい
くことで「心の負担」が増えていくことを実感しています。

< 9月の行事予定 >

9月13日(金) 10:00~

宗祖日蓮大聖人龍口報恩会

鬼子母尊神
七面大明神) 祈禱会

9月22日(日) 13:00~

秋季彼岸中日法要会

< 9月住職の予定 >

寺院にて法務

< 9月の予定 >

9月6日(金)

各々の時間で

清掃. 準備

↓

12日(木)

↓

↓

13日(金)

法要後

片付け. 準備

14日(土)

各々の時間で

清掃. 準備

↓

20日(金)

↓

↓

21日(土)

前日準備